

出張報告届

令和6年 10月 25日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会
代表者氏名 白石 透
出張者氏名 白石 透

下記のとおり出張したので届け出ます。

記



出張先	アクリエひめじ（兵庫県姫路市）
期間	令和6年10月17日から 10月18日まで2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	「第86回全国都市問題会議」 健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市 政策～

第 86 回全国都市問題会議 報告書

日程;令和 6 年 10 月 17 日 (木)・18 日 (金)

会場;アクリエひめじ (姫路市文化コンベンションセンター)

講演者・パネリスト 福岡 伸一 生物学者、青山学院大学教授

清元 秀泰 姫路市長

谷口 守 筑波大学システム情報系教授

井崎 義治 流山市長

畑 豊 兵庫県立大学副学長

宮本 太郎 中央大学法学部教授

三木 崇弘 高岡病院児童精神科医

奥村 圭子 NPO 法人日本栄養パトネット

理事長

今井 敦 長野県茅野市長

南出 賢一 泉大津市長

第 1 日目の基調講演は、大阪・関西万博 (EXPO 2025) テーマ事業

「いのちを知る」プロデューサーで、サントリー学芸賞を受賞し、89

万部を超えるベストセラーとなった『生物と無生物のあいだ』、『動的平衡』など、‘生命とは何か’を動的平衡論から問い直した著作を数多く発表された福岡伸一氏の講演で、「生命とは、手、足、胴体、頭、あるいは各臓器といった“部品”が組み合わさってできた、プラモデルみたいなものである」という見方で、機械的生命観といってもいい。だから「壊れたところは取りかえればよいし、古いところは新しくすればよい。」とする機械論とは違う、もう1つの画期的な生命観を唱えておられ、それは、生命が、流れの中にあることを明確なかたちで最初に示し、研究途上で自殺を遂げたルドルフ・シェーンハイマーというユダヤ人科学者の考え方に共感されたようで、「私たちが食べた分子は、身体を構成する分子と絶え間なく交換されつづけている。つまり、私たち生命とは、部品からなりたっている分子機械でなく、部品自体のダイナミックな分解と合成の流れの中でたゆたう“分子の淀み”なのである。」と考えられているという内容でとても興味深い講演だった。

続いて、開催地である姫路市長の姫路市の紹介があり、その歴史、人口は兵庫県内で2番目で、約52万人の中核市であり、世界文化遺産・国宝姫路城とともに海・山・川などの豊かな自然や多彩な農水産

物に恵まれていること、また、ものづくり産業が集積する商工業都市として発展し、近年は、近隣の 7 市 8 町と播磨圏域連携中枢都市圏を形成し、圏域をけん引する役割を担っていることなどの時々、笑いを入れながらの話があった。

人生 100 年時代の到来を見据え、市民の「LIFE」(命)(くらし)(一生)を守り支えることを市政の基本方針として、市民の健康増進にむけた施策を積極的に展開していることなどの話がなされた。

日本の平均寿命、当市の健康寿命、健康とは、健康がまちの活力を生み出す。など、以前はお医者さんだったということでかなりわかりやすい内容だった。

健康づくりに資する姫路市の取組で、(1) 市民による主体的な介護予防の促進のため、軽度認知障害等の予防支援として、「通いの場」への参加促進を勧めている。「通いの場」とは地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げ、地域の介護予防の拠点ともなる場所で、姫路市では市内約 470 か所の会場で、高齢者の運動機能の維持・向上を目的に週 1 回程度活動する「いきいき百歳体操」が開催されているほか、市内各地域における高齢者が自由に参加可能な「通いの

場」の活動支援を行っている。次に、(2) MCI 等の把握・予防支援である。高齢者が集う「通いの場」などにおいて、チェックリストによるセルフチェックを実施し、市内 2 か所の認知症疾患医療センターと連携し、認知症や MCI の可能性と、鑑別診断の要否のスクリーニングを実施することによって、MCI の早期発見につなげている。

また、しりとりや計算などの認知課題と、運動を組み合わせた「コグニサイズ」を主体とした予防支援プログラムを行うことにより、認知症への進行予防を支援しているなどのいくつかの取組みが紹介された。

2 日目のパネルディスカッションにかけて、「心理社会面からみた子どもの健康」「食を切り口とした栄養パトロール事業」、未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築、「未来予防対策先進都市」をめざした「官民連携」、「市民共創」のまちづくりなど、各市町村であったり、団体であったり多くの人の共通のテーマとして、考え、実行し、「健康」に取り組まれていることが、しみじみとわかった。

横の連携も取りつつ、最高のパフォーマンスで成果を出せるよう努力したいと思える全国都市問題会議だった。